

2025年卒向けキャリア形成支援プログラム※の実施状況

2025年卒よりルールが改正されたキャリア形成支援プログラム※の実施状況は？

※キャリア形成支援プログラムとは、インターンシップをはじめ、オープン・カンパニー、キャリア教育を含むキャリア形成支援に係る取り組みの総称を指す

企業の56.3%が2025年卒向けに実施

2025年卒の学生が2023年度に参加するものからインターンシップの取り扱いが変わり、「タイプ1：オープン・カンパニー」「タイプ2：キャリア教育」「タイプ3：汎用的能力・専門活用型インターンシップ」「タイプ4：高度専門型インターンシップ」の4つに類型化され、後者2つのみが「インターンシップ」と呼称できることとなった(表①)。これら4つのキャリア形成支援プログラムの2025年卒向け実施状況を見る。

2025年卒向けのキャリア形成支援プログラムを「実施(予定含む)」と回答した企業は56.3%であった(P17・グラフ②)。このうち、「タイプ1：オープン・カンパニー」を実施ないし実施予定の企業の合計(以下、「実施・計」)は90.1%、「タイプ3：汎用的能力・専門活用型インターンシップ」の「実施・計」は41.6%であった(P17・グラフ④)。

各プログラムの実施時期は、「タイプ1：オープン・カンパニー」は、「2023年8月」が53.4%で最も高かった(P17・グラフ⑤)。月別の実施率を見ると、2023年8月～2024年2月の期間で3割～5割台で推移しており、卒業年次前年夏～冬にかけて一定数のプログラムが実施されたことが分かる。一方、「タイプ3：汎用的能力・専門活用型インターンシップ」は、「2023年8月」(67.3%)、「同9月」(46.4%)の実施率が高く、他は1割台以下であったことから、卒業年次前年夏に実施が集中していたことが分かる。

また、2023年9月に2025年卒の学生を対象にキャリア形成支援プログラムの応募・参加状況を調査したところ(P17・表③)、就職意向のある大学生(「まだ志望進路を決めていない」を含む)のうち、応募経験があるのは88.0%、参加経験があるのは85.2%で、応募した学生のほとんどがいずれかのプログラムに参加した様子がうかがえる。平均応募社数は9.45社、平均参加社数は5.94社であった。

① キャリア形成支援に係る取り組みの4類型

類型	「インターンシップ」とは称さない		「インターンシップ」と称して実施	
	タイプ1 オープン・カンパニー	タイプ2 キャリア教育	タイプ3 汎用的能力・専門活用型 インターンシップ ※1	タイプ4(試行) 高度専門型インターンシップ
目的	個社や業界に関する情報提供・PR	働くことへの理解を深めるための教育	就業体験を通じて、学生にとっては自らの能力の見極め、企業にとっては学生の評価材料の取得	就業体験を通じて、学生にとっては実践力の向上、企業にとっては学生の評価材料の取得
対象	年次不問	年次不問	学部3・4年、修士1・2年、博士課程学生(大学正課を除く)	修士課程、博士課程学生 ※詳細は下段の「主に想定されるもの」参照
主に想定されるもの	企業・就職情報会社や大学キャリアセンターが主催するイベント・説明会	・大学等が主導する授業・産学協働プログラム(正課・正課外を問わない) ・企業がCSRとして実施するプログラム	企業単独、大学等が企業あるいは地域コンソーシアムと連携して実施する、適性・汎用的能力ないしは専門性を重視したプログラム	・高度な専門性を重視した修士課程学生向けインターンシップ(仮称)(産学協議会で検討中) ・ジョブ型研究インターンシップ(自然科学分野の博士課程学生を対象に文科省・経団連が共同で試行中)
就業体験	なし	任意	必須 ①実施期間の半分以上を職場での就業体験に充てる(就業体験要件) ②職場の社員が学生を指導し、学生に対しフィードバックを行う(指導要件)	必須
所要日数	超短期(単日)	授業・プログラムによって異なる	③汎用的能力活用型は5日間以上。専門活用型は2週間以上(実施期間要件)	・ジョブ型研究インターンシップ：長期(2カ月以上) ・高度な専門性を重視した修士課程学生向けインターンシップ(仮称)：検討中
実施時期	学士・修士・博士課程の全期間。時間帯やオンラインの活用など、学業両立に配慮	学士・修士・博士課程の全期間。時間帯やオンラインの活用など、学業両立に配慮	④学業との両立の観点から、長期休暇期間(夏休み、冬休み、入試休み・春休み)(実施時期要件)。ただし、大学正課および博士課程は、長期休暇に限定されない	—
取得した学生情報の採用活動への活用	不可	不可	卒業・修了年次前年3月以降は広報活動に、卒業・修了年次6月以降は採用選考活動に使用可	卒業・修了年次前年3月以降は広報活動に、卒業・修了年次6月以降は採用選考活動に使用可

※1 タイプ3において、表中の①～④、並びに⑤情報開示要件(※2)の5つを満たしている場合、「インターンシップ」と称し、「産学協議会基準準拠マーク」を募集要項等に記載することができる。

※2 情報開示要件として、次の①～⑨に関する情報が募集要項などに記載されていることが求められる。

①プログラムの趣旨(目的)／②実施時期・期間、場所、募集人数、選抜方法、無給/有給等／③就業体験の内容(受け入れ職場に関する情報を含む)／④就業体験を行う際に必要な(求められる)能力／⑤インターンシップにおけるフィードバック／⑥採用活動開始以降に限り、インターンシップを通じて取得した学生情報を活用する旨(活用内容の記載は任意)／⑦当該年度のインターンシップ実施計画(時期・回数・規模等)／⑧インターンシップ実施に係る実績概要(過去2～3年程度)／⑨採用選考活動等の実績概要 ※企業による公表のみ

※産学協議会作成「何がかわるの？ これからのインターンシップ」(https://www.keidanren.or.jp/policy/2022/039_leaflet2.pdf) P7～8などを基に就職みらい研究所にて作成

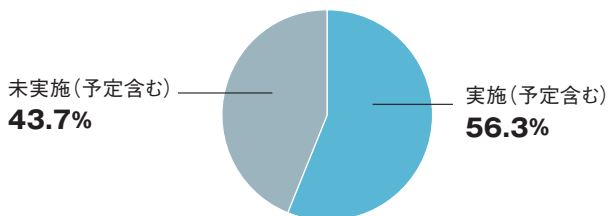


企業

56.3%が、2025年卒向けに
キャリア形成支援プログラムを実施／実施予定

2 2025年卒向けキャリア形成支援プログラムの実施予定

※全体／単一回答



学生

85.2%が、キャリア形成支援プログラムに参加

3 インターンシップ等のキャリア形成支援プログラムの
応募・参加状況

※大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む／数値回答

	n	経験割合	平均社数
応募	801	88.0%	9.45社
参加	801	85.2%	5.94社

※平均社数の集計対象は、1社以上応募した学生(応募平均数)および1社以上参加した学生(参加平均数)
(2025年卒 インターンシップ・就職活動準備に関する調査)

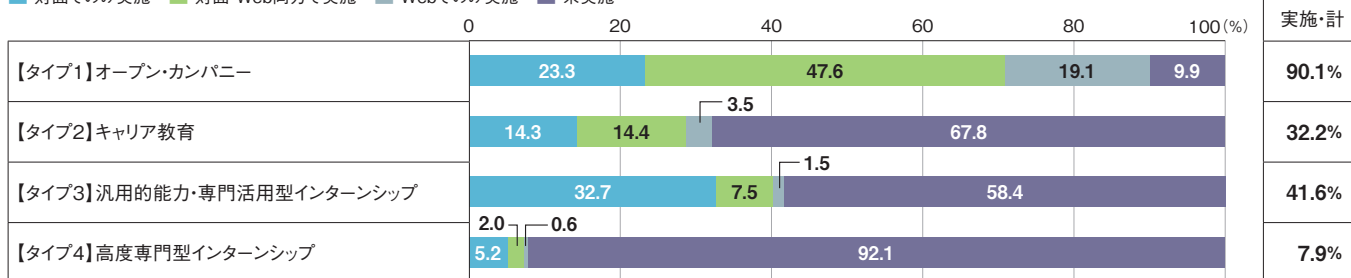
企業

実施／実施予定は、「オープン・カンパニー」が90.1%、「汎用的能力・専門活用型インターンシップ」が41.6%

4 2025年卒向けキャリア形成支援プログラムの実施内訳

※2025年卒向けキャリア形成支援プログラム実施企業／単一回答

■ 対面でのみ実施 ■ 対面・Web両方で実施 ■ Webでのみ実施 ■ 未実施



企業

「オープン・カンパニー」は夏～冬にかけて、
「汎用的能力・専門活用型インターンシップ」は夏季に集中して実施

5 2025年卒向けキャリア形成支援プログラムの実施時期(予定含む)

※2025年卒向けキャリア形成支援プログラム実施企業／複数回答

